



更なる技術の進化を目指して

常務取締役
西濱 渉

山陽特殊製鋼技報第23巻の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2016年は、世界的にみるとブラジル・リオデジャネイロにおいてオリンピックという世界平和にも貢献する一大イベント開催という記念すべき年ではありますが、一方では世界情勢や経済不安が拡大し緊張の度合いが高まっております。日本国内に目を向けると3月に熊本地震という大災害が発生し、多くの方々が被災され、名城熊本城も損傷する災害に見舞われました。日本の力を発揮し早期の復興が望まれるところであります。

当社にとりまして本年は、第9次中期経営計画の最終年度にあたり、その成果を摘み取り、さらに第10次中期経営計画の策定、そして将来に向けた布石を打つ大事な年となります。

第9次中期経営計画の基本方針として、～「高信頼性鋼の山陽」のブランド力の更なる向上による企業価値の増大と成長を目指して～を掲げ、国際コスト競争力および研究開発力・品質対応力・納期対応力・システム基盤等の非価格競争力を強化することでグローバル競争に打ち勝てる企業体質の構築を図ることを目指し種々の課題に対して取り組んでおります。

その中で、特に非鋼材事業には積極的に経営資源を投入しています。素形材事業に関しては、タイに素形材製造子会社SSSPを設立し昨年12月に商業生産を開始しました。さらにメキシコに、ベアリング分野としては日系で初めて鍛造～旋削一貫製造プロセスを備える素形材事業子会社SMMを設立し、2017年に立ち上げ予定で工事が順調に進んでおります。これにより当社の素形材事業は、日本、中国、米国、インド、タイ、メキシコの世界6極体制が整備されることとなります。

また、今後さらに伸展が期待される粉末事業に関しては、最新鋭の第二粉末工場が2017年操業開始を目指して工事が進められています。今回の技報では、その粉末事業に関する小特集を組み、金属3Dプリンタ、電磁波吸収体、ショットピーニングをはじめ、粉末加工技術の進歩や粉末成形技術等その一端をご紹介しますいただきます。

このように当社の業容を拡大することで、グループトータルの収益力強化を図り、あらゆる経済環境下でも最善の収益を確保しうる、上下方とも弾力性のある、強靱な企業体質の構築をめざしております。

当社の研究部門としては、需要家様のニーズに応えるべく、他社を凌駕するプレミアム商品や高機能な差別化商品、イノベティブソリューションを提供する新商品や新技術の開発など技術先進性の拡大を推進するとともに長期的展望に立った基盤的要素研究および技術開発に取り組んでおります。世の中の変化は益々加速していきます。取り巻く環境変化を見据え、そしてさらなる広い視野で需要家様のニーズを先取りし、開発のスピードUPを図り技術のさらなる進化を目指してまいりたいと思います。

今後とも皆様方の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。